

科目名 (科目コード)	同和保育 【1251】	配当年次	2	担当 教員	易 寿也	対象 区分			
		単位数							
授業の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・人権宣言の理解を通じて、保育の中での人権尊重の感覚を育てる意義を学ぶ。 ・日本に於ける固有の人権課題としての同和問題についての理解を深める。 ・命の尊厳きめつけいじめの考察を通じて、保育の中での人権侵害の“芽”について考える。 ・保育者、保護者も含めた関係性の中での人権尊重の保育の創造について考える。 								
授業の 計 画	<p>15回のテーマ別に、学習を進めて下さい。</p> <p>第 1 回：世界人権宣言について学ぶ。第一条を何度も読んで味わう。 保育園の中での、子どもたちとの小さな取り組みに、世界の平和や人権擁護へのきっかけがある。</p> <p>第 2 回：我が国固有の人権問題である同和問題を知る、 同和地区に住んでいることで、いわれのない差別や理不尽な取り扱いを受けるといった差別とは。</p> <p>第 3 回：同和保育の歴史を知り、人権が尊重された保育について考察する。 被差別部落での乳幼児期の子どもたちの厳しい現実に向き合ったのが同和保育の実践である。その成果が人権保育として生かされている。人権について学ぶことができる場としての保育園では、子ども同士の間にも、教員の間にも、いじめや理不尽な扱いがない場ではなければならない。</p> <p>第 4 回：人権文化を育てる保育について考察する。 園の中で子供達が体験する保育内容は、自分にもみんなの力になれるという自尊感情や、自分もここにいていいんだという安心感を育てるものでなければならない。</p> <p>第 5 回：遊びを通じて、互いの違いを受け入れる感覚を育くむ集団作りについて考察する。 相手の痛みにきづく感性や優しさのある行動は、“生きる力”である。保育はその土台を作る。 集団作りの中に、管理主義的な傾向が出て来ることについて考える。</p> <p>第 6 回：かけ声倒れの人権尊重にならないために。命の尊厳について伝えるためにできることを考える。 小動物の飼育や、自然とのふれあいを通して何を伝え感じさせるのかを考える。</p> <p>第 7 回：保育園におけるいじめについて、特にいじめの“芽”に注目して考察する。 実習などで得た具体的な子どもの関係性についての気づきについて振り返る。</p> <p>第 8 回：保育園における差別や排除につながるきめつけについて考察する。 教科書内のケーススタディーを通して考える。</p> <p>第 9 回：園児を巡る大人の関係が及ぼす影響について考える。 教科書内のケーススタディーを通して考える。</p> <p>第 10 回：岩本氏の述べる「まことの保育」の意味を考える。 岩本氏の実践を通じて考える。</p> <p>第 11 回：命の尊厳に関わる保育実践について考える。 命の尊厳を伝える実践の中で抑えておくべき視点について整理する。</p> <p>第 12 回：いじめが起こる今日的な背景について考える。 保育園児の段階から義務教育段階でのいじめにどのように繋がっているのかを考える</p> <p>第 13 回：今日的な人権課題と保育について考える。 インクルーシブ教育の視点をどう取り入れるのかを考える</p> <p>第 14 回：今日的な教育課題と保育の課題について考える。 道徳教育とのつながりを考える。</p> <p>第 15 回：これからの保育実践に生かしていくために自分は何を大切にするのか考え提案する。 主体的で、協働的で、深い学びという視点から考える。</p>								
教科書	<p>教科書：「いのち」の保育 ―一人ひとりの人権をまもる― 阿吽社 / 岩本孝樹著 参 照：世界人権宣言について ユース・フォー・ヒューマンライツ インターナショナルの HP 部落差別解消推進法(2016年)</p>								
持参物									
評価方法	<p>学生に対する評価 レポートの提出物による評価</p>								